

こう言えばいいのか

松坂 ヒロシ

英語の勉強の途上、「ああ、こう言えばいいのか」という発見をしてうれしくなることがあります。

学生時代、自分がいたアメリカの大学の学生宿舎のある部屋のドアに、“This door is closed for a reason.”と書いた張り紙があるのを見ました。ああ、「わけがあって」は for a reason と言えばいいのか、と思って、得をした気持ちになりました。

振り返ると、私は、英字新聞の紙面に、本のページに、ラジオやテレビの放送に、会話の相手の一言に、「ああ、こう言えばいいのか」と叫びたくなるような英語表現をいくつも見つけました。

さて、いま、日本の英語教育が変革期を迎えています。これからは、学習者が読解力だけ鍛えていたのでは不十分である時代になります。4技能のバランスのよい発展は、もちろん、以前から学習指導要領の精神でしたが、これまでは、必ずしもそれが英語力の評価法に十全には反映されていませんでした。今後は、評価の際、発信力がこれまで以上の重みを持つようになります。

私は、コミュニケーション英語の教科書 *POLESTAR English Communication* の執筆に関わらせていただいておりますが、私どもの教科書に限らず、すべての教科書を通して、高校生が、発信力を大きく伸ばしてくれることを願っています。そのための言語材料は、教科書の中にふんだんにあります。例を挙げましょう。

私どもの教科書の I の Lesson 2 の話題はペットボトルです。炭酸入りの飲み物のためのペットボトルの底は、平らではなく、独特の凹凸がついています。これは、炭酸の圧力を分散し、圧力にボトルが耐えられるようにするための形です。このことを表す英語として、私どもは、最初、“The bottoms of the latest carbonated drink bottles look like the petals of a flower. The purpose of this design is to disperse the air pressure inside the bottle.”(最近の炭酸入り飲み物のボトルの底は、花びらに似ている。このデ

ザインの目的は、ボトル内部の気圧を分散することである)という英語を考えました。この英語は、しかし、コミュニケーション I の Lesson 2 には難しくすぎです。私どもの編集会議で、英語の質が検討され、いくつもの案が出ては消えました。長時間の話し合いのすえ、英語ネイティブスピーカーの執筆者が、次のような文言を提案してくれました。“They now look like a flower with petals. The new design helps to handle the pressure of drinks with gas in them.”(それら=ペットボトルの底=は、現在、花びらのついた花に似ている。新しいデザインは、ガス入りの飲み物の圧力に対応する助けとなる。)(now が入っているのは、この文が最新のボトルを以前のボトルと比較する文脈の中に出てくることによります。)これが最終的に教科書に載ることとなった英語です。「分散」という概念は出していませんが、help to handle the pressure を使って、気圧の問題への対応法を説明しています。最初の案にくらべて英語としてずっと易しくなった handle the pressure は、「ああ、こう言えばいいのか。」の好例と言えるでしょう。

私どもの教科書をご覧いただければ、具体的な「ああ、こう言えばいいのか」がたくさん詰まっていることにお気づきいただけると思います。私は、こうした発見が積み重なって、高校生の英語の豊かな表現の幅が出来上がっていくのだと確信するものです。英語のこうした表現力は、英単語と日本語の単語を一对一で対応させて学んでも形成できません。メッセージを伝える英語の実例に触れてこそ伸ばして行くことができます。

高校生たちが「ああ、こう言えばいいのか」の瞬間を何度も経験し、英語学習の楽しさを味わってくれば、これほどうれしいことはありません。

(早稲田大学教授)

Revised POLESTAR English Communication I 代表著者